ガチ！ロボ！！（仮）形状把握先行試作型テストタイプ

ふるうつ盆地

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ガチ！ロボ！！（仮）形状把握先行試作型テストタイプ

【Ｎコード】
Ｎ４９９０Ｏ

【作者名】
ふるうつ盆地

【あらすじ】
題名通りの先行試作試験小説プロトタイプ。

転送ゲートを抜けると、自動的にコクピットに座っていた。
「すごい、これが、本当に操縦できるのか」
足首から後頭部まで身体にフィットした操縦席は、搭乗者に掛かる衝撃を和らげる配慮だろう。両脚下にはフットペダルが、肘置き左右には操縦桿が配置され、雰囲気を盛り上げてくれる。彼の着座を確認して、足の間からタッチパネルが起きあがってきた。
「操縦方式はウィッチの采配で大きく左右されるって言うけど……」
そう言う意味では、幸運だったと神に感謝するしかない。タッチパネルにズラリと並んだボタンには、彼が設定した『必殺技』が分かりやすく並んでいたからだ。
「これなら！」
気合いを込めて、操縦桿を握りしめた。
眼前、3面のフロントモニターに電源が入り、外の景色がコクピットに流れ込んでくる。

「おいおいおい、これってありかよ？」
転送ゲートを抜けて、彼が放り出されたのは、球状の何もない空間だった。仮にもコクピットだというのに、突起の一つもない。青年の乗機は、戦車タイプから人型へと変形する、泥臭い雰囲気が大人を感じさせる渋いロボだ。であるならば、分かっている人間なら、コクピットは押しつぶされそうなほど狭く、モニターやセンサー類がひしめく、詰め込んだ感を演出するはずである。
操縦方式はウィッチの胸先三寸で決まるというが、
「……外れ引いた……」
安い、という理由で派遣を頼んだのが裏目にでた。いや、本当な

ら青年だって、気のあった仲間とチームを組んで参戦したい。が、青年が設定を熱く語れば語るほど、携帯電話に登録されたウィッチの一覧の、着信拒否表示が増えていくのだ。
「つうか、どうやって操縦すんだよ？　まさか踊れってんじゃないだろうな！」
『腰についてるよ』
「腰？！」
やる気の感じられない少女の声に従うと、確かに、そこにコントロール装置があった……見覚えがある、たぶん人生で一番馴染んだ、二世代前のゲーム機のコントローラー。
『直感的でしょ？』
「もうちょっと、こう、情緒というか……大体、こんなに広かったら、ダメージ食らったら吹っ飛ぶだろ」
『でもこの機体設定だと……一撃でほぼ大破だよね？　予備機に転送するから問題ないよ』
「わかってない……わかってねぇよ。そうじゃなくてさ、こういう機体からの脱出は、ひしゃげたハッチをバーナーで焼き切るとか、爆砕ボルトでハッチを吹き飛ばすとか、そういうもんじゃん？　計器の隙間をかいくぐって、フルフェイスメットを脱ぎ捨てて、こう！」
力説への応答は得られなかった。代わりに、相棒である原型師から通信が来る。
「あ～、さんざん言ったから大丈夫だと思うけど、も一回確認するぞ。バトル始まったら、すぐに機体乗り捨てな。それ、視聴者受け狙って細部工作から塗装まで滅茶苦茶手かかってるから、壊されたくねぇし。戦闘だけなら、パチ組みの奴で十分だろ？　ミサイルハッチもオープンの状態で固定してあるからすぐ撃てるし」
「だから、お前！　この機体の場合はミサイルハッチが開かないトラブル含めてが売りだと何回説明したら！」
「その機体壊したら、今度こそコンビ解消な」

通信が途切れた。
こみ上げてくる怒りをコントローラーにぶつけたら、弾力ある壁に跳ね返って青年の顔面に直撃した。

『さぁ、今週もこの時間がやってまいりました。実況はおなじみ、この私。解説は、第５５期ワールドホビーケース受賞者、Ｋｅｉさんでお送りします。
さて、本日は市内５カ所、特設公園にてバトルが行われますが……あ、速報です。第３会場のみ、飼い猫が迷い込んだとのことで、開始時刻が遅れると連絡が入りました。
さてさて、ほかの会場ではすでに、ウィッチたちによる原型変換作業が終了し、ロボたちがエンジンを暖めて待機しております。では、第１会場から、対戦カードの紹介です』

『……さぁ、第４会場の紹介です。
まずは、常連、怒れるミリタリー野郎、ロド六！　最近はコレがお気に入りなのか、宇宙空間から海中まで、特殊部隊御用達の変形戦車での参戦だ』
『大変丁寧な工作と塗装で好感がもてますね。市街地という舞台に、あの埃っぽい汚し塗装がマッチしていて、ありだと思います。あとあのモデル、本当は小さいんですが、ミサイルハッチを可動にしたり、砲口まで気を配られていたりと、細かい部分まで手が入っているんですよ』
『さぁ、早速解説の好感触。むさ苦しい男たちからの固定票もあって、直前投票ではグングンポイントを上げております。対戦しますは、ニューフェイス！　なんと３０年前のキットを改造してのチャレンジ、ホワイトデビル・最終決戦仕様だ』

『これは、懐かしいですね。ちょっと塗装がアニメっぽいのがスケール的に残念ですが、模型工作的には見所満載ですよ。はめ込み間接も全て現在の規格に交換されていますし、狙われやすい間接は自作カバーで防護。しっかりと接地しているのは、足首に引き出し加工を施してあるんでしょうか。旧キットはその辺り、手が入れやすいですからね。間接の位置を変えるだけで印象がガラリと変わりますし、こういうモデラーが野に埋もれているから、この大会は面白いんですよね～』

『さぁ、思い出補正がかかって解説も熱が入ります。視聴者投票も、３０代４０代のオヤジ世代に偏ってますねぇ。現代アレンジを加えた旧作がどこまで動きを魅せてくれるか、期待していきましょ～』

正面モニターの上に、中継画像が表示されていた。

「オヤジ世代に偏ってるってよ」

『高校生が古い機体つくたって良いじゃんかな！』

お金がなくて、古い機体を使わざるを得なかったとは言い出せない。バズーカを2門装備したのも、最終決戦云々を知っていたからではなく、抱き合わせ販売の武器セットを流用したからだ。

が、認められた。

百戦錬磨の猛者たちが集うこの大会で、初出場ながら好感触を得られたのだ。あとは、勝ちたい。勝たなければ、この街には残れない。敵はこちらの膝ほどの高さしかない戦車だが、設定的にはアチラの方が新型だ。おまけに量産型という補正から、全部で3機までバトルに投入できる特典がある。

「本戦じゃ量産型が強いって、本当だったんだな」

『設定だけなら、こっちも１０分で重機動タイプを１３機葬ったらしいぜ』

「それ、パイロットがチート性能だったからだろ？」

『ま、コッチもパーツ換装は認められてるんだ……ジャンクパーツ

の寄せ集めで、ビックリさせてやろうぜ』
『二人とも、緊張感なさすぎ……』
ウィッチに呆れられたが大丈夫だ。本戦に参加できた喜びが全身をワクワクさせて、黙って緊張しているなんて出来ない。
相手はベテラン。スーパーロボですら沈めるミリタリー馬鹿。何度かテレビ中継でバトルを見たことがある、機体が破壊されるたびに全力疾走で次の機体へ駆ける、その必死な形相が滑稽だった。その必死さが、高い勝率に繋がっているのかも知れない。汗と涙と鼻水でグチャグチャになった顔でのウィナーインタビューは非難轟々だけれども。
「これが……18メートルの視点」
そんな相手を見下ろして、彼は改めて、自分が空中高くにいる、という現実に心を震わせた。ウィッチと呼ばれる、現幻変換者がいるからこその、『魔法』。実際魔法としか言いようがないのは、限られた空間に限り、理論と結果を逆にするという、現代科学全否定な力業だからだ。
どんな非現実的な現象も、パラメータを入力すれば現実化する空間。
もちろん、その出鱈目さにも限度はあるが、30センチ以下の模型を20メートルほどに変換……その中にパイロットを乗せて操縦可能とし、設定次第で荷電粒子砲を撃ち、空を飛ぶ程度は問題ない、という破天荒ぶり。
なぜ、そんな超技術が、若者達のお祭りに適用されているのかは、誰も知らない。
だが、今やこのバトルは、全世界に動画配信され、世界中の子供達に夢と希望と、燃える心を与えていることこそが、現実。
ある意味で世界を席巻した、日本の誇る変態技術。
「……勝つぞ！」
気合を、手の平に込めて。
操縦桿に、覆いかぶさるように体重を乗せ。

（たくさん話し合って、時に喧嘩して、シミュレーターだってクリアして、ここまで来たんだ）

『さぁ、第３会場のトラブルも解決して、１０分遅れ、大変お待たせしました！』

少年が、モニターの向こうを見据え、両脚の裏で、ペダルの感触を確認する。

青年が、網膜に展開された外界の彼方、見下ろすホワイトデビルを睨み返し、コントローラーに両手指を絡ませる。

『３，２，１、ＧＯ！』

全世界が狂乱する、宴の幕が揚がる！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4990o/

ガチ！ロボ！！（仮）形状把握先行試作型テストタイプ

2010年10月24日21時25分発行